

シビル メール ニュース



これまでに配信されましたシビルメールニュースは、「日本大学理工学部土木工学科」のホームページ (<http://www.civil.cst.nihon-u.ac.jp>)より『OB向け情報』→『シビルメールニュース』でご覧いただけます。

なお、シビルメールニュースをE-mailにて配信ご希望の方または郵送を希望される方は、卒業年次・氏名・勤務先・配信メールアドレスを明記の上、mailnews@civil.cst.nihon-u.ac.jpで申し込み下さい。

発行責任者 土木工学科教授・教室主任 松島眸

土木博が開催されました

11月1日(土)～3日(月)までの3日間、駿河台校舎にて、第16回青駿祭(大学祭)が開催され、その中の土木工学科の出展として土木博(CIVIL EXPO 2008)が10:00～17:00まで開催されました。1号館3階を土木工学科で貸し切り、フロア全てを使って土木工学の魅力を来場者に伝えました。今年の来場者は3日間で延べ550名を越え、昨年度を越える来場者を迎え、大盛況となりました。今年は17研究室が参加し、それぞれが工夫を凝らした出展を企画し、熱心に説明を行いました。

最終日は、1号館2階カフェテリアにて教員と学生の参加による懇親会が行われ、実行委員が主体となり会場は大いに盛り上がりました。また、毎年恒例となった土木写真展は、学部4年の濱田結子さんの作品「黒部ダム」が最優秀賞に選ばれました。

以下、実行委員長の鏡健太君のコメントを掲載いたします。



土木博会場の様子

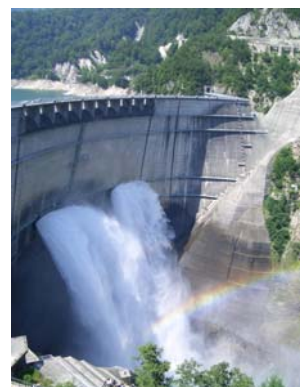


「土木博を終えて」 大学院1年 鏡 健太 君

皆様の協力を持ちまして「CIVIL EXPO 2008」を無事に終える事が出来ました。来場者数は559名を数え、多くの方々に来場していただきました。

今回、CIVIL EXPO 2008を通じて感じた事は、人との繋がりの大切さでした。実行委員同士の意見交換、意思疎通、情報伝達の重要性、様々な人と話す機会などを通じて、新たに物事を多角的に捉えるきっかけになった事、多くのOB、OGの方々の来場に日大土木の強みを感じることができました。こうした人と人との繋がりが広がり、お互いが困っているときに助け合える関係が自分自身の財産になっていくと感じました。さらに、OB、OGの方々に指導していただく機会を持つことにより、社会に出てからの人間力を育成することができたのではないかと感じました。

最後に、CIVIL EXPOに参加していただいた来訪者及びOB、OGの方々、本当にありがとうございました。



土木写真展最優秀作品
濱田結子「黒部ダム」

平成 20 年度日本大学理工学部学術賞を鎌尾彰司准教授が受賞

11月7日（金）駿河台校舎1号館6階CSTホールにて、学術賞等表彰式が行われました。理工学部学術賞3名、学会・協会賞41名、学位取得者40名が表彰され、本学科から鎌尾彰司准教授が理工学部学術賞を、大沢昌玄助手と長谷川巖さん（平成3年卒業）が学会・協会賞を受賞し、学位取得者の熊田哲規さん、仲村成貴助手に記念品が贈呈されました。

以下、鎌尾彰司准教授からのコメントを掲載いたします。



「理工学部学術賞を受賞して」 鎌尾 彰司 准教授

この度は、「軟弱粘性土地盤の長期沈下予測手法の確立」で理工学部学術賞を受賞することができましたことは大変嬉しく思っております。同時に、恩師である山田清臣先生（日本大学名誉教授）をはじめ、様々な方のご指導によるものと感謝申し上げます。もちろん、これまでに研究室に在籍した多くの大学院生・卒研生の協力なくしては研究を遂行することはできませんでした。

振り返ってみますと、大学院修士1年生の頃から高有機質土という超軟弱地盤の長期にわたる沈下挙動予測に取り組み、およそ20年の歳月が経過しております。この間に大きな転機が2度ありました。1つは1999年に学位を取得したことであり、もう1つは2007年に1年間オランダのデルフト地盤研究所に滞在して共同研究を実施したことあります。いずれも今後の研究活動において大きな励みとなっていくものであると思います。

ところで、学術賞の受賞者も土木工学科では7人目とのこと。昨年の斎藤先生に引き続き2年連続での受賞となりました。自身の研究活動はもちろんのこと早く8人目の受賞者が本学科から出るように後輩の応援もしていきたいと思っております。

ホームページで研究室の情報を発信しております。

(<http://www.civil.cst.nihon-u.ac.jp/~kamao/>)

キャンパスウォッチングが開催されました

11月2日（日）に船橋校舎14号館にて、10:00～15:00まで船橋キャンパスウォッチングが開催されました。土木工学科では、14号館3階1431教室にて後藤浩専任講師が「海の脅威から国土を守るシビルエンジニアの活躍」と題し、公開講義を11時から30分間行いました。多数の高校生が聴講し、土木の仕事について興味を深めていました。公開講義終了後は15時までの間、1432教室にて入試・学科相談会が行われました。なお、船橋校舎にて行われた習志野祭開催期間中（11月1日～3日）はテクノブレース15の環境水理実験室にて、10時から終日、研究施設紹介が行われ、大津岩夫教授、安田陽一教授、高橋正行専任講師と同研究室の大学院生、卒研生が来場者に対応し、約300名の来場者を迎えました。



安田先生による
研究室施設紹介



後藤先生の公開講義

第 52 回学術講演会が開催されました

11月29日(土)に駿河台校舎1号館にて平成20年度(第52回)日本大学理工学部学術講演会が開催されました。講演会は16の部会と特別セッション、理工学部学術賞受賞記念講演で構成され、口頭セッション、ポスター発表セッションが設けられました。土木工学科でも多くの教員、学生が口頭、ポスターそれぞれのセッションに参加しました。理工学部学術賞受賞記念講演会では、理工学部学術賞を受賞した、鎌尾彰司准教授が「軟弱粘性土地盤の長期沈下予測手法の確立」と題して講演を行いました。なお、最優秀発表者賞ノミネートとして土木工学科から2名の学生が選ばれました。



鎌尾先生の講演の様子



ポスターセッション会場の様子

学年	受賞者名	タイトル
大学院博士後期課程	喜多村 延政	落葉広葉樹の枯葉抽出液による有毒藍藻類の増殖抑制効果 ～増殖抑制因子の探索～
大学院博士前期課程	坊野 祐紀	高分解能衛星画像を用いた都市域の非人工的土地被覆の抽出方法の評価

マイク・シュライヒ教授による講演会が開催されました

10月24日(金)に駿河台校舎1号館6階CSTホールにて、ベルリン工科大学のマイク・シュライヒ教授による講演会が行われました。これは、「未来の構造を考える」をテーマに、土木工学科と建築学科のジョイント講演会でした。マイク・シュライヒ教授は、ドイツを代表する構造エンジニアで、コンセプトデザイン、構造デザインの観点から複数の作品を創出しています。当日は、多数の教員ならびに学生が聴講し、講演会終了後は、懇親会も行われ、交流を深めていました。

詳細については、次号掲載いたします。

最近の教員活動状況



安田陽一教授が、10月20日(月)～23日(木)まで中国・南京で開催されたThe 3rd IAHR International Symposium on Hydraulic Structure(第3回 IAHR 水工構造物に関する国際会議)に参加しました。安田教授は、IAHR(国際水理学会)の水工構造物委員会委員で、「Effect of installation of fishway on flow characteristic Around weir」「Energy dissipater of slited Sabo dams」「Flow characteristics of pool-type fishway with trapezoidal section」「Flow characteristics of a pool type fishway installed in Sabo dam during flood stage」と題して、それぞれ発表を行いました。さらに、「Eco-hydraulics on Fishways-Experiments and Field Investigations」と題して、招待講演を行いました。また、安田教授は「Hydraulic Structure for Water Projects」のセッションで司会も務めました。



松島眸教授と吉田征史助手が10月27日(月)～30日(木)まで中国・上海で開催されたEMECS 8(第8回世界閉鎖性海域環境保全会議)に参加しました。そこで、大学院生博士課程の喜多村延政君が「Influence of the condensed tannin extracted from the dead leaves of deciduous trees on the growth control of toxic cyanobacteria like Microcystis aeruginosa」と題し、研究生の島田浩司君が「Effect of the condensed tannin from the dead leaves of deciduous trees on the photosynthesis reaction inhibition to Microcystis aeruginosa」と題し、発表を行いました。



島崎敏一教授、金子雄一郎専任講師、大沢昌玄助手、下原祥平助手が、11月1日（土）～3日（月）に和歌山大学で開催された土木学会の第38回土木計画学研究発表会に出席しました。大沢昌玄助手が「鉄道廃止路線における駅跡地の再活用状況」と「つくばエクスプレス沿線の駐車場整備に関する基礎的研究」と題した発表を、昨年度大学院を修了した中野仁嘉さん（現博報堂）が「業務核都市を目的地としたパークアンドライドの実態、野尻彰さん（現富山県）が「鉄道線路跡地の実態と再活用状況に関する研究」と題した発表を、大学院生の長谷部知行君が「歩道上を走行する自転車の危険度評価」、阿部光太郎君が「交通基盤施設の事業価値の算定手法に関する基礎的研究」と題した発表をそれぞれ行いました。また、金子専任講師は「公共事業評価（2）」セッションにおいて司会を務めました。



岸井隆幸教授が、11月8日（土）に北海道大学にて開催された日本都市計画学会第43回学術研究発表会においてワークショップ座長として参加しました。

さらに、岸井隆幸教授と大沢昌玄助手は、11月14日（金）に砂防会館別館にて開催された第28回交通工学研究発表会において、昨年度大学院を修了した西塚陽さん（現江東区）と共に「都心近傍への住み替えと交通行動・自動車保有の変化に関する基礎研究」と題し、発表を行いました。



長谷部寛助手が、土木学会平成20年度全国大会第63回年次学術講演会優秀講演者として表彰されました。講演題目は、「位相平均に基づくタンDEM配置正方形角柱間の変動気流の特性」です。

以下、長谷部寛助手のコメントを掲載いたします。

受賞論文は、斜長橋の並列ケーブルや送電線などのように、流れ方向に物体が直列に配置されたタンDEM配置構造の物体間の気流性状について、2本の正方形角柱を対象として風洞実験を実施し検討したものです。これまで、角柱間の気流の構造については、測定の高難さからか、直接風速を測定し検討した事例はほとんどありませんでした。本論文では、角柱間の風速を密に測定することで、その空間分布、および上流側角柱から放出された渦がどのように流下するかを明らかに致しました。

この実験には、過去3年間計6名の風工学研究室の卒研究生に携わっていただきました。その方々に、この場を借りて心よりお礼を申し上げます。今後もこのような賞が受賞できるよう、より一層努力を重ねたいと思います。

出前講義の状況



大沢昌玄助手が、11月19日（水）に神奈川県伊勢原市の向上高等学校において、「都市を眺め、そして創る」と題し出前講義を行いました。当日は、1時間の講義を2回行い、合計約30名の生徒さんが参加しました。向上高校の周辺まちづくりや将来のビックプロジェクトを紹介し、土木が行うまちづくりを身近なものとして感じ取っていただきながら、都市とは何か、まちづくり構想立案、実際のまちづくりプロジェクトについて、自分の経験を踏まえながら紹介しました。